

氏 名	上 田 紀 行
授与した学位	博 士
専攻分野の名称	医 学
学位授与番号	博甲第 3702 号
学位授与の日付	平成20年6月30日
学位授与の要件	医歯学総合研究科社会環境生命科学専攻 (学位規則第4条第1項該当)

学位論文題目	Study of Views on Posthumous Reproduction, Focusing on its Relation with Views on Family and Religion in Modern Japan (死後生殖に関する意識の研究 ―現代日本の家族観、宗教観との関連を中心に)
--------	--

論文審査委員	教授 宮石 智 教授 荻野 景規 准教授 氏家 寛
--------	---------------------------

学位論文内容の要旨

日本においても既に数例が実施されている死後生殖は、これまで社会的に十分な議論も、法的な整備も見られず、死後認知をめぐる訴訟が提起されている。その背景のもと、本研究は初めて死後生殖に対する日本人の意識を明らかにすることを目的とする。死後生殖に関する意識を、家族観、宗教観等との関連の中で調査するための質問紙を作成し、全国の32大学に送付し、3719名の学生からの回答を得た。約6割が死後生殖に賛成であることが明らかになった。さらに、死後生殖に対する意識と、生殖補助医療への肯定度、家族観、宗教観等との関連を統計学的に分析した。死後生殖への肯定度は、生殖補助医療への肯定度、自己決定を重んじるリベラルな世界観と高い関連を示す一方で、家の継承といった伝統的な意識とも高い関連を示した。また、死後生殖への肯定度には、家族の親密性の意識との高い関連が見られたが、その背景には、亡くなった家族は生者を見守っているという、日本の伝統的な他界観との高い関連が見られた。死後生殖に対する意識は、伝統的保守とリベラルという二分法のみからでは説明できない、文化複合的なものである。

論文審査結果の要旨

本研究は、死後生殖に対する日本人の意識について3700余人を対象として調査し、多種多様な観点から、統計的手法も用いて解析したものである。このような調査は国内外において過去には殆ど行われておらず、将来における死後生殖の在り方を考えてゆくための重要な第一歩を踏み出した価値ある業績である。

よって本研究者は博士(医学)の学位を得る資格があると認める。